

兵庫県西部地震災害復旧支援に参加して

熊井戸工業株式会社

大山美英

この度、阪神大震災の上水道復旧支援に際し、日本水道協会 群馬県支部からの要請により、高崎市支援工事派遣者として、高崎市水道工事業協同組合からの参加出動に赴き、現地活動の様相や若干の感想につき、報告させていただきます。

派遣先の兵庫県西宮市は、この大震災で最大の被害に見舞われた神戸市より東側に位置し、甲子園球場を有する、人口42万余の都市であります。また、漢の生一本で有名な酒造工場も数多く、阪神地区内において人口密度も高く、東西交通網の要所であり、他の地方都市と比べ、はるかに発展を遂げており、この地を襲った震災による甚大な被害は、私達の想像を越える状況でありました。

第一次支援工事班として出発する準備の慌しさの中で、その責任の重さと、行く先の不安に、想いは揺らぎましたが、高崎市水道局各位の万全なる準備と、現地に臨む熱意に心打たれました。

更に高崎市役所にて格別なる壮行式に与り、高崎市民の代表としての決意を新たに、現地へ向かうことが出来ました。

宿泊地である兵庫県立鳴尾浜体育館は、震災の影響も少なく、設備も格段に整った施設でありましたので、私達が用意していた寝具類も全く必要とせず、暖房設備をはじめ、食事も昼食用の弁当を含み、三食が用意され、西宮市役所の担当者も親切な案内にて、全国より支援に集まった400余名の派遣者共々、安心して宿泊することが出来ました。到着前には予想もせず、西宮市側の受入れ体制が周到に準備されたことに感心しました。

群馬県内より、高崎市を含め8市1企業体が参加した支援の活動先は、白水協群馬県支部・前橋市水道局給水課長の指揮のもとに、西宮市南西部にあたる阪神電鉄香炉園駅南側に位置する川西町、堀切町、中浜町、上・中・下それぞれの葭原町、大浜町地区内でありました。こちらへは、阪水越木岩水系から250%、越水水系から300%の配水管が布設されており、小中学校をはじめ、文化センターや美術庁舎を含む、文教住宅地区にて、御前浜より瀬戸内海を臨み、普段であれば「静かな佇いの街並み」であったことと思われました。

私達が宿泊した鳴尾浜体育館は、甲子園球場近くの西宮市でも東南にありましたが、支援活動先へは臨港線と呼ばれる県道を往来しましたが、西へ進むにつれ震災被害が大きくなるのが街並や街路状況で確認され、復興のために各地より、あらゆる関係方面の支援車が数多く通行し混雑してありました。

支援活動現地では、当初試験通水調査として、一時的に制水弁を開放して、漏水箇所を確認する作業に入りましたが、直後に、その配水管先方にある公道上の制水弁より、弁管の錆鉄蓋が浮き上る程、漏水した箇所を発見し、私達高崎市水道局派遣の最初の復旧工事となりました。直ちに機械や資材の準備に取りかかりましたが、その時にわかに附近の住民が近寄り、湧きあがる水道に群がるようにして、幼児達までもがオモチャのバケツを手に水汲みをはじめ、その場で洗濯を行う主婦もあり、思いもよらぬ状況となりました。震災後、1か月が過ぎ、給水車による支援体制は整っているようでしたが、水の大切さ

を痛感しているであろう被災地の方々が、待望の通水に、これ程までも高く関心を寄せていることを目前にして、私達は改めてこの支援活動の意義と重さを思い知らされ、強く印象に残りました。

日を増すごとに復旧工事は着々と進み、配水管、給水管
多岐にわたり、困難な作業ではありましたが、私達は思いのそれぞれに、復旧の充実感と、責任感の自覚に溢れ、互いに励ましあいなから復旧に臨むことが出来ました。修繕状況のうち、宅地への給水管の漏水について、管枝料、施工方法も個々各々でありましたので、私達それぞれの判断と対応にて処置しました。配水本管の漏水修繕は、当初、継手部分の破負等が指摘されていましたが、現地では、制水弁や消火栓など、公道上に表れた弁筐と、埋設された配水管の地震の揺れの違いにより、破負に至ったものと思われる状況でした。現地は花崗岩が風化した砂地にて路盤はもろく、ガスパ管等、他の埋設管も近設しており、慎重に復旧作業を進めました。

復旧作業日程はあつという間に過ぎ、後継の班に引き継ぎを行ない、作業の要旨と、安全を願いましたが、この度の支援活動の貴重な経験を踏まえ、私達水道事業に係る責任の重さと、市民生活に密着した水の大切さを胸に、新たなる決意にて、現地を後にしました。久し振りに高崎の水にて飲むお茶を美味にいただきながら、今後の仕事に邁進する所存であります。

平成7年3月4日・記